

災害対応

災害発生時には、独自回線・衛星回線を生かした機動力のある通信システムで、災害現場等の情報を迅速に中部地方整備局内はもとより、地方自治体等の防災関係機関に伝送し、的確な対応を可能にします。

災害把握

災害発生時には、被災状況を把握し、復旧工法の検討等に役立てたり、二次災害を未然に防ぎます。



ヘリサット

防災ヘリに搭載されたヘリサットにより、上空からのリアルタイム映像等を地上へ伝送します。

Ku-SATや衛星通信車を現地に設置し、地上災害に影響しない衛星通信回線を利用して被災箇所の映像を継続的に伝送します。



Ku-SAT



仮設カメラ

災害現場では、仮設カメラを設置して現地の映像情報を伝送します。



平成22年度入省
小川 瑞貴

災害時の情報通信職員の役割

災害発生時、いち早くその情報を正確かつリアルタイムに情報収集するために、「情報通信班」として、被災地との通信回線を確認し、映像等の情報を伝送します。的確な対応が確実にできるよう、保有する防災設備だけでなく、民間のデータ伝送技術等も活用できるよう日々努めています。

情報提供



村役場へ映像提供



地デジによる情報提供

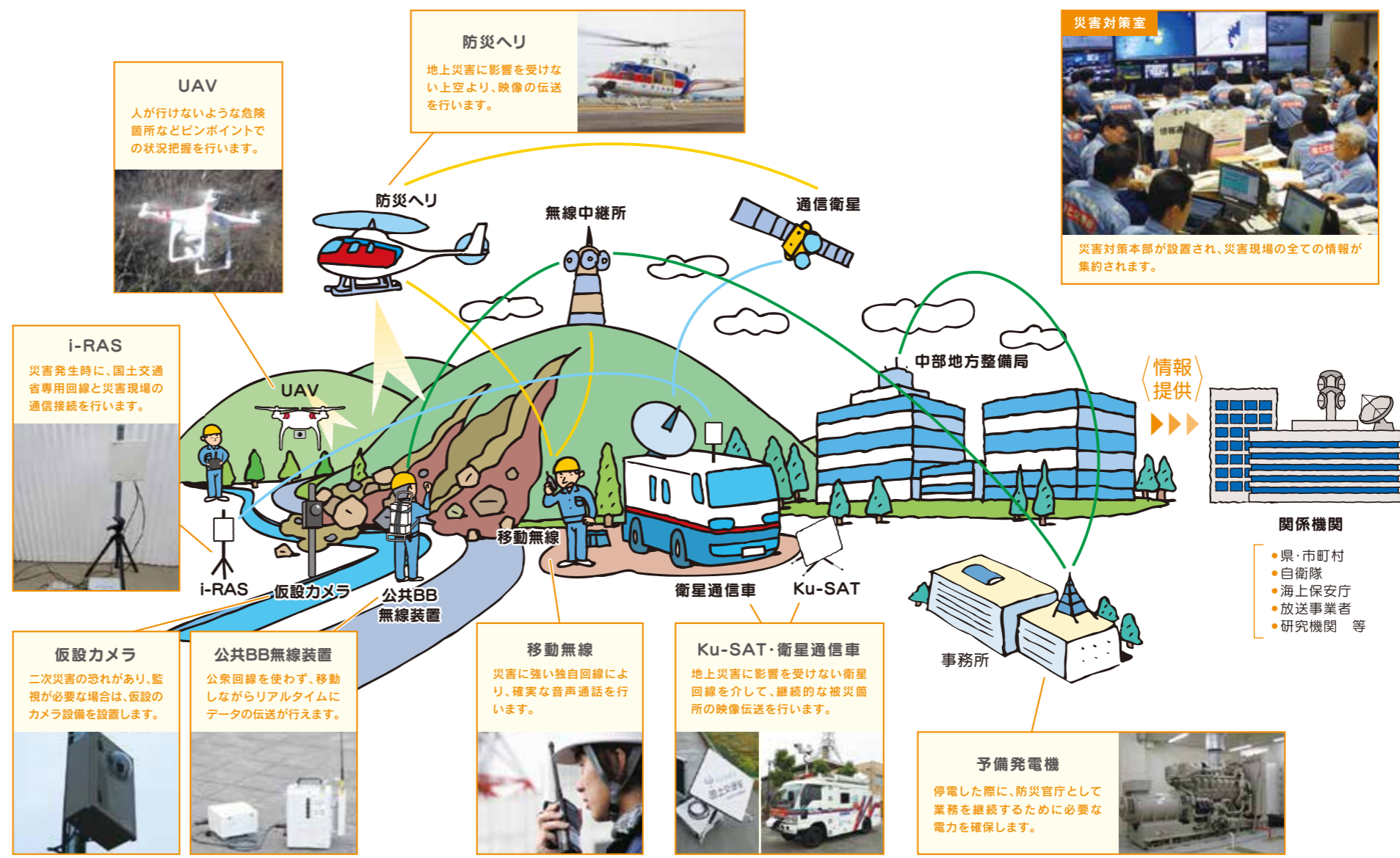
市町村長が住民に対して行う避難指示等の判断となる、雨量や水位の情報や道路・河川のカメラ映像を、県・市町村へ提供しています。また、NHKや民放各社へも情報提供しています。

信頼関係の構築

私たちは、災害時に迅速な対応が出来るよう定期的に防災通信訓練を行っています。愛知県内で行われた訓練では県や市にも協力していただきました。訓練を通して技術を磨くことはもちろんのこと、地元自治体と連携して対応することの大切さを実感しました。



平成28年度入省
今井 弦



UAV
人が行けないような危険箇所などピンポイントでの状況把握を行います。

防災ヘリ
地上災害に影響を受けない上空より、映像の伝送を行います。

i-RAS
災害発生時に、国土交通省専用回線と災害現場の通信接続を行います。

仮設カメラ
二次災害の恐れがあり、監視が必要な場合は、仮設のカメラ設備を設置します。

公共BB無線装置
公衆回線を使わず、移動しながらリアルタイムにデータの伝送が行えます。

移動無線
災害に強い独自回線により、確実な音声通話を行います。

Ku-SAT・衛星通信車
地上災害に影響を受けない衛星回線を介して、継続的な被災箇所の映像伝送を行います。

予備発電機
停電した際に、防災官庁として業務を継続するために必要な電力を確保します。

災害対策室
災害対策本部が設置され、災害現場の全ての情報が集約されます。

関係機関

- 県・市町村
- 自衛隊
- 海上保安庁
- 放送事業者
- 研究機関 等